

原 著

ワークライフバランス（仕事と家庭の調和）に関する本学医学部学生の意識調査

¹東京女子医科大学女性医学研究者支援室²東京女子医科大学附属遺伝子医療センター³東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学（一）⁴東京女子医科大学医学部第一生理学⁵東京女子医科大学男女共同参画推進局女性医師・研究者支援センター⁶東京女子医科大学男女共同参画推進局女性医師再教育センターコソドウ エリ^{1,2,5}・ノハラ ミチコ^{3,5}・カワカミ ヨリコ^{4,6}・サイトウカヨコ^{1,2,5}
近藤 恵里^{1,2,5}・野原 理子^{3,5}・川上 順子^{4,6}・斎藤加代子^{1,2,5}

（受理 平成21年10月5日）

**Work-life Balance and Women's Career: Questionnaire Survey Among Medical Students in
Tokyo Women's Medical University****Eri KONDO^{1,2,5}, Michiko NOHARA^{3,5}, Yoriko KAWAKAMI^{4,6} and Kayoko Saito^{1,2,5}**¹Support Center for Female Medical Scientists, Tokyo Women's Medical University²Institute of Medical Genetics, Tokyo Women's Medical University³Department of Hygiene and Public Health I, Tokyo Women's Medical University School of Medicine⁴Department of Physiology, Tokyo Women's Medical University School of Medicine⁵Support Center for Women Health Care Professionals and Researchers, Gender Equality Promotion Office,
Tokyo Women's Medical University⁶Professional Reentry Support Center for Women Physicians, Gender Equality Promotion Office,
Tokyo Women's Medical University

All students attending Tokyo Women's Medical University were questioned in this survey to gain an understanding of the prevailing thinking concerning careers by contemporary female medical students as well as to help improve the university education and working environment. The findings obtained from the responses which made up 87.1% of the whole, revealed that many students had ideas of their own careers from an extremely early stage and looked forward to dual roles in their work as doctors and also their experience in life events such as marriage, childbirth and raising children, which are peculiar to women. The survey found a strong commitment to preparing themselves and gaining as much information as possible for those purposes while they were still students as they worked their way towards graduation with their own objectives and plans. Better career information prior to graduation and improvements in workplace environments are essential for meeting the expectations of these students.

Key words: work-life balance, women's career, medical students, workplace environments

緒 言

医師不足が社会問題となっている現在、医師国家試験合格者の約4割を占める女子医学生は、将来をどのように考え、どのような選択をしていくのかという事は社会的にも重要な問題であり、強い関心が持たれている。しかしながら、女性医師が育児と

仕事を両立していくことは容易ではなく、大学を離れ、医療・研究からも離れざるを得ない場合も少なくない¹⁾。女性医師のキャリア継続は、本学卒業生のみならず国内外の多くの女性医師がそれぞれに悩み、様々な努力で取り組んでいる難しい課題である²⁾³⁾。

以前より政府が力を入れている男女共同参画の施策に関して、大学における女性教員や指導者が少なく、理系の女性研究者はさらに少ない現状に対し、現在全国の大学が女性に機会を提供し支援するシステムの取り組みが行われている⁴⁾。文部科学省科学技術振興調整費による本学の「保育とワークシェアによる女性医学研究者支援」3年間プロジェクトが、2008年度で終了し男女共同参画推進局女性医師・研究者支援センターとして新たな一歩を踏み出した^{5)~7)}。このプロジェクトでは女性研究者に対するワークシェアやフレックス勤務体制、病児保育の開設・運営、女性医師を対象としたカウンセリング事業により順調に進められ、一つのモデルケースとして高い評価を受けるに至った。さらに、事業の一貫として毎年開催した女性医師支援交流会等においては、現役医師だけでなく本学学生の自発的な参加と発言が見られるという喜ばしい成果が得られた。現在の学生の将来の選択に対する積極的な意識が伝わってきた。男女共同参画が具体性を持つようになった現代に、学生は全員女子という本校の環境で、どのような意識が育まれているのだろうか。

そこで、当プロジェクト終了後も様々なアイデアでより良い女性医師支援を展開するべく、現在の女子医学生のキャリア形成に対する考え方を把握し、これからの大学教育と勤務環境の整備に役立てることを目的として、「将来のワークライフバランス（仕事と家庭の調和）に関する本学医学部学生の意識調査」を実施した。この調査結果から見えてきた現在の女子医学生の考え方、求められる支援の形についての分析をまとめ報告する。

対象と方法

2008年12月、本学医学部の学生全員（613名）に対し「将来のワークライフバランス（仕事と家庭の調和）に関する本学医学部学生の意識調査」用紙（表1）を、主に授業終了後またはテュートリアル時間の一部を利用し、直接配布・回収を行った。質問内容は、①医師を志した者として、いつ頃から将来のキャリアを意識しているのか、②将来的にはどのような業務に従事したいと思っているのか、③将来、女性医師として生きる上で、どんな心配をしているのか、④結婚・出産についての意識はどうか、⑤ワークライフバランスのために必要と思うものは何か、などに焦点を絞った。

結 果

全体で534名（87.1%）の回答が得られた（表2）。

1. 女子医大へ入学を決意した理由の中に、卒業後の女性医師支援体制に対する期待はあったか

「はい」と答えたのは1年生66%、2年生67%、3年生68%、4年生40%、5年生62%、6年生49%で、全体としては59%であった（図1）。

2. 現在、卒業後の女性医師支援体制や将来のキャリアについて意識しているか

「はい」と答えたのは1年生78%、2年生76%、3年生84%、4年生91%、5年生96%、6年生88%で、全体としては85%であった（図2）。

3. 将来、医師として従事したいと思っている業務は何か（2項目選択）

全体多い順に、診療97%〔1年生93%、2年生96%、3年生97%、4年生96%、5年生97%、6年生100%〕、研究37%〔1年生43%、2年生26%、3年生44%、4年生33%、5年生44%、6年生37%〕、教育21%〔1年生22%、2年生20%、3年生13%、4年生18%、5年生26%、6年生29%〕、行政14%〔1年生13%、2年生14%、3年生14%、4年生19%、5年生17%、6年生5%〕であった（図3）。

4. 将来女性医師として働いていく上で、現役的女性医師に聞いてみたいことは何か（3項目選択）

学年によって選択率が多少ばらついているが、全体としては多い順に、結婚・出産・育児79%、仕事と家庭の両立71%、労働時間・休暇62%、専門科を選んだ理由35%、体力的問題35%、収入29%、医局制度26%、人間関係21%、昇進の機会13%であった（図4）。

5. 将来、子供をもちたいと思うか

もちたい86%〔1年生78%、2年生84%、3年生83%、4年生87%、5年生93%、6年生93%〕、もちたくない3%〔1年生5%、2年生1%、3年生4%、4年生3%、5年生4%、6年生0%〕、わからない11%〔1年生16%、2年生15%、3年生13%、4年生9%、5年生3%、6年生7%〕であった（図5）。

6. 子供をもった場合、子育て時期の仕事はどう思うか

仕事を続けたい（非常勤にて）44%〔1年生48%、2年生49%、3年生38%、4年生49%、5年生36%、6年生47%〕、仕事を続けたい（常勤にて）34%〔1年生36%、2年生27%、3年生39%、4年生31%、5年生38%、6年生29%〕、ある時期仕事から離れる21%〔1年生15%、2年生23%、3年生22%、4年生20%、5年生24%、6年生24%〕であった（図6）。

表1 アンケート質問事項

問1	あなたが女子医大への入学を決意した理由の中に、卒業後の女性医師支援体制に対する期待はありましたか？ a) はい b) いいえ
問2	現在、卒業後の女性医師支援体制や将来のキャリアについて意識をしていますか？ a) はい b) いいえ
問3	あなたが将来医師として従事したいと思っている業務は何ですか？（当てはまるもの2つを選んで下さい。） a) 研究 b) 教育 c) 診療 d) 行政 e) その他（記入は別紙へ）
問4	将来、女性医師として働いていく上で、現役の（先輩）女性医師に聞いてみたいことは何ですか？（当てはまるもの3つを選んで下さい。） 1) 体力的問題 2) 労働時間・休暇 3) 医局制度 4) 収入 5) 専門科を選んだ理由 6) 人間関係 7) 結婚・出産・育児 8) 仕事と家庭の両立 9) 昇進の機会 10) その他
問5	あなたは将来、子どもをもちたいと思いますか？ a) もちたい b) もちたくない c) わからない
問6	もしも子どもをもった場合、子育て中の仕事はどうすると思いますか？ a) ある時期、仕事から離れる b) 仕事を続けたい（非常勤にて） c) 仕事を続けたい（常勤にて） d) その他
問7	子育てをしながら仕事を続ける時期に、主に従事したい業務は何ですか？（当てはまるもの2つを選んで下さい。） a) 研究 b) 教育 c) 診療 d) 行政 e) その他
問8	具体的には自分の将来像をどのように考えていますか？ a) できる限りキャリアを追求し医療機関や病院で役職を得る。 b) 開業や地域の病院などで地域医療に貢献し、社会的活動のリーダーとして活躍する。 c) 家庭・子育てと仕事の両立を大切にする。（周囲の支援を受けながら、仕事も家庭も両方頑張る。） d) 家庭・子育てを最優先する。 e) その他
問9	女性も勤務を続けていくために最も必要なものは何だと思いますか？ a) 育児環境 b) 職場環境 c) 配偶者の理解 d) 自分の意思 e) その他
問10	現在女子医大で行われている女性医師支援策について、あなたが知っているものをすべて選んで下さい。 a) 育児中の医師の常勤短時間勤務制度 b) 女性医学研究者支援室（研究業務に対する短時間勤務支援） c) 院内保育園・病児保育室 d) 女性医師再教育センター（一旦臨床現場を遠ざかった人への復帰支援） e) 女性医療リーダー育成を目指す全学横断教育（キャリア形成についての卒前教育）
問11	他にどんな支援があると良いと思いますか？自由に書いて下さい。

表2 アンケート回収率

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
在校人数（名）	103	108	96	104	106	96	613
参加人数（名）	92	108	77	89	95	73	534
回収率（%）	89.3	100	80.2	85.6	89.6	76	87.1

7. 子育て中も仕事を続ける際、従事したいと思う業務は何か（2項目選択）

診療 90% [1年生 85%, 2年生 89%, 3年生 92%, 4年生 91%, 5年生 92%, 6年生 95%], 研究 33% [1年生 36%, 2年生 23%, 3年生 36%, 4年生 29%,

5年生 40%, 6年生 36%], 教育 20% [1年生 25%, 2年生 25%, 3年生 12%, 4年生 17%, 5年生 23%, 6年生 21%], 行政 13% [1年生 13%, 2年生 10%, 3年生 13%, 4年生 18%, 5年生 16%, 6年生 0%]であった。

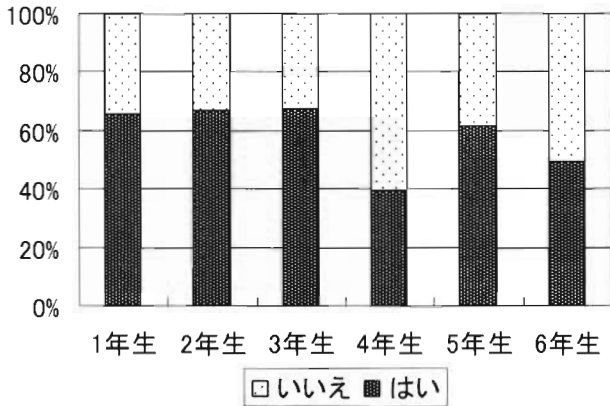


図1 【問1】あなたが女子医大への入学を決意した理由の中に、卒業後の女性医師支援体制に対する期待はありましたか？

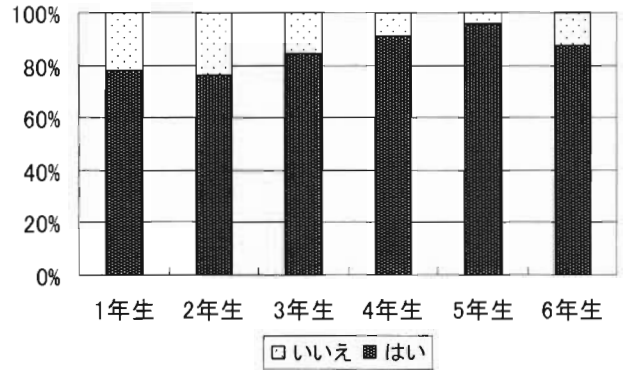


図2 【問2】現在、卒業後の女性医師支援体制や将来のキャリアについて意識をしていますか？

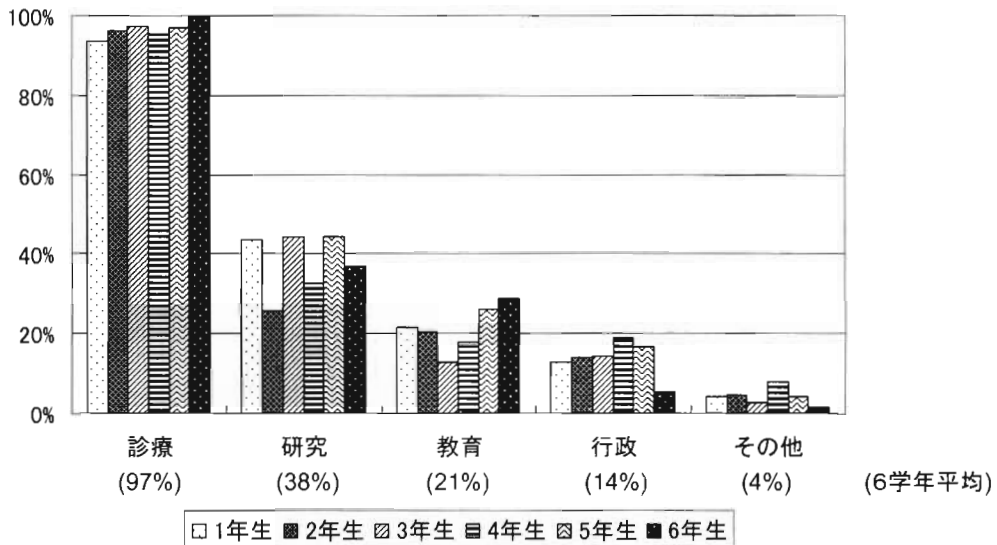


図3 【問3】あなたが将来医師として従事したいと思っている業務は何ですか？（当てはまるもの2つを選んで下さい。）

8. 自分の将来像をどのようにイメージしているか

家庭・子育てと仕事の両立を大切にする 70% [1年生 58%, 2年生 69%, 3年生 70%, 4年生 71%, 5年生 78%, 6年生 74%], 開業や地域の病院などで地域医療に貢献し, 社会的活動のリーダーとして活躍する 16% [1年生 18%, 2年生 20%, 3年生 14%, 4年生 20%, 5年生 10%, 6年生 15%], できる限りキャリアを追求し, 医療機関や病院で役職を得る 10% [1年生 18%, 2年生 8%, 3年生 14%, 4年生 6%, 5年生 7%, 6年生 7%], 家庭・子育てを最優先とする 3% [1年生 1%, 2年生 1%, 3年生 0%, 4年生 0%, 5年生 1%, 6年生 0%]であった(図7).

9. 女性が勤務を続けていくために最も必要と思うものは何か

学年によって選択率が多少ばらついているが, 職場環境 45% [1年生 38%, 2年生 47%, 3年生 38%, 4年生 48%, 5年生 57%, 6年生 43%], 配偶者の理解 25% [1年生 28%, 2年生 23%, 3年生 36%, 4年生 17%, 5年生 21%, 6年生 25%], 育児環境 19% [1年生 23%, 2年生 21%, 3年生 18%, 4年生 21%, 5年生 12%, 6年生 22%], 自分の意思 10% [1年生 11%, 2年生 9%, 3年生 8%, 4年生 10%, 5年生 10%, 6年生 10%]であった(図8).

10. 現在女子医大で行われている女性医師支援策について, 知っているものはどれか(複数選択)

認知度はそれぞれ, 院内保育所・病児保育室 84%

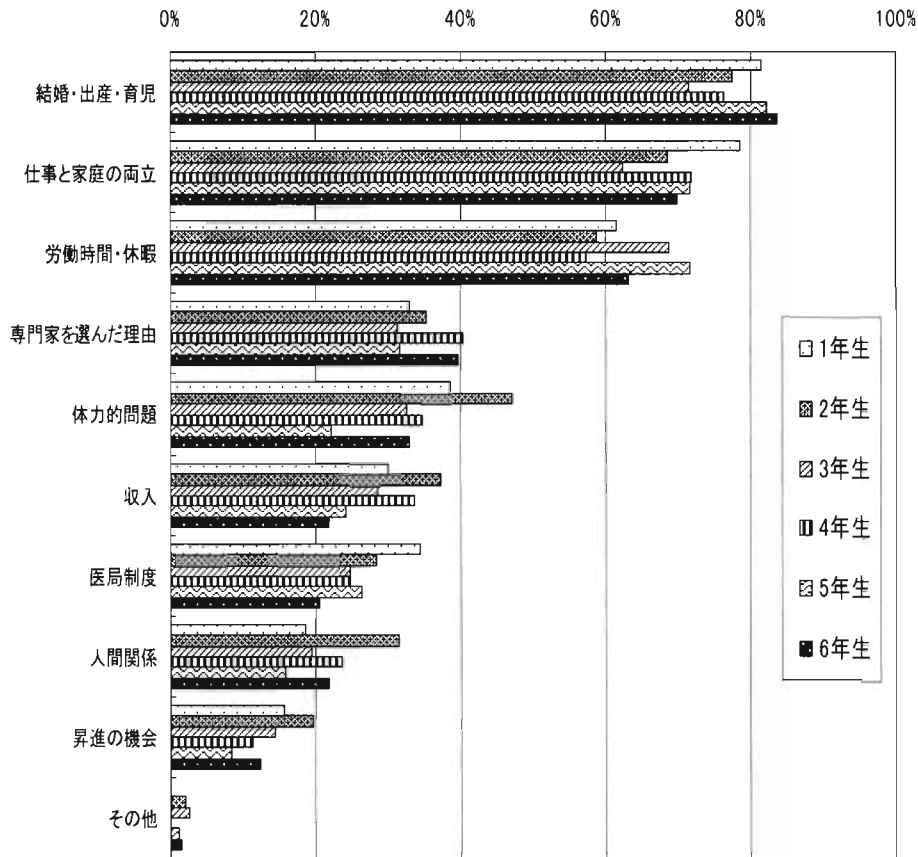


図4 【問4】 将来、女性医師として働いていく上で、現役の(先輩)女性医師に聞いてみたいことは何ですか？
(当てはまるもの3つを選んで下さい。)

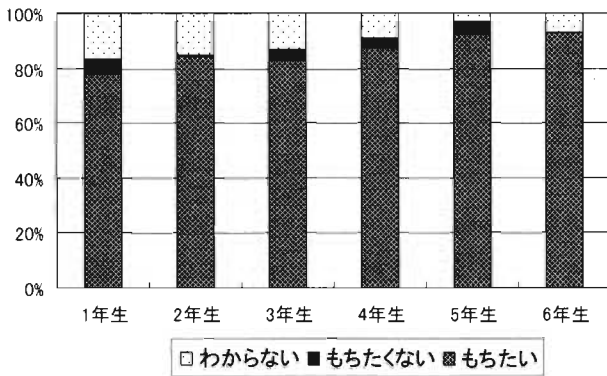


図5 【問5】 あなたは将来、子どもをもちたいと思いますか？

[1年生 90%、2年生 73%、3年生 92%、4年生 85%、5年生 86%、6年生 78%]、女性医師再教育センター 55% [1年生 76%、2年生 56%、3年生 36%、4年生 45%、5年生 55%、6年生 59%]、常勤短時間勤務制度 24% [1年生 23%、2年生 18%、3年生 21%、4年生 26%、5年生 31%、6年生 25%]、女性医学研究者支援室 17% [1年生 27%、2年生 11%、3年生

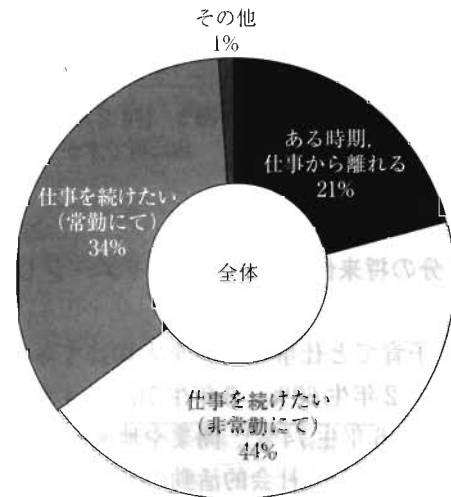


図6 【問6】 もしも子どもをもった場合、子育て中の仕事はどうだと思いますか？

12%、4年生 23%、5年生 13%、6年生 15%], キャリア形成卒前教育 3.8% [1年生 5%、2年生 3%、3年生 4%、4年生 3%、5年生 3%、6年生 4%]であった。

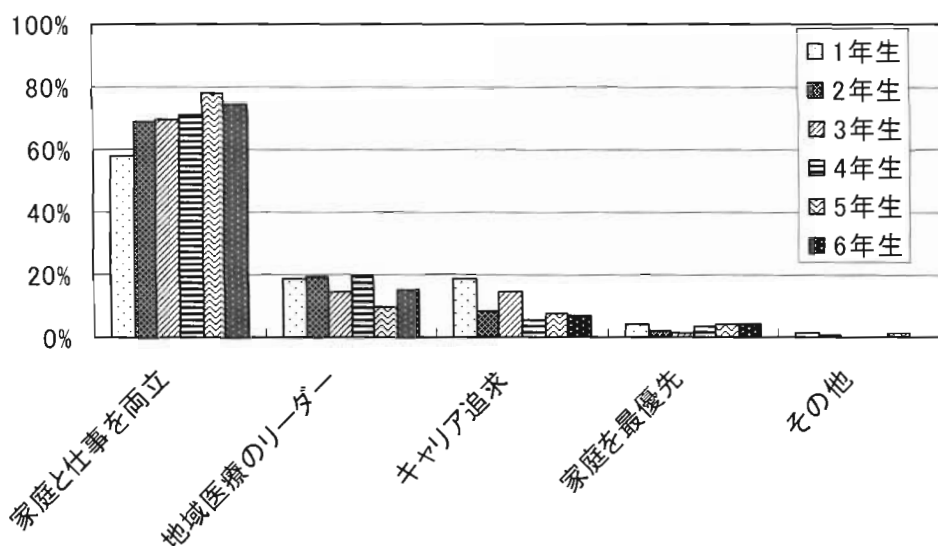


図7 【問8】具体的には自分の将来像をどのように考えていますか？

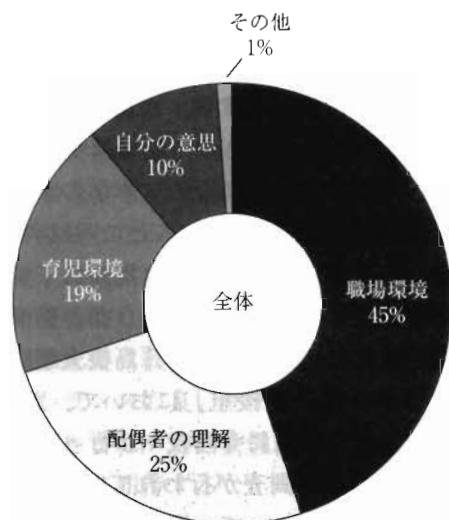


図8 【問9】女性も勤務を続けていくために最も必要なものは何だと思いますか？

11. 他にどのような支援があると良いと思いますか？（自由記載）

合計45名より様々な意見が提出された。主なものとしては、①学生時代からのキャリア教育（7名）、②男女間、医局間、施設間における女性支援に対する認識格差解消（7名）、③相談窓口設置や支援情報交換会開催（6名）、④男性医師に対するサポート（6名）などがあった。

①について具体的には、多様な勤務形態の選択肢について教えてほしい、支援体制の活用法を教えてほしい、ロールモデルである先輩方の体験談や講演を聞きたい等の表現が多かった。多くの情報を卒業

する前に把握し、自分なりの考えを持って歩みはじめたいという強い意欲が感じられる意見が集められた。

考 察

ワークライフバランスとは、「仕事と生活(家庭)の調和」と訳され、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる」ことを示す。我が国では少子化対策・男女共同参画の文脈で語られることが多いが、出生率向上・男女均等政策のみならず、労働時間政策、非正規労働者政策など働き方の全般的な改革に関わっている。2007年末には政府、地方公共団体、経済界、労働界の合意により「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」が策定され、現在、官民を挙げて様々な取り組みが進められており、本学においても積極的に取り組むべき重要な課題と言える⁸⁾。

本学は女性の社会的地位の向上を目指して創立された本邦唯一の女性医師育成の医科大学であり、医学や研究を追求する人材を支援する義務がある。現在、本学医学部の教育カリキュラムにおける「人間関係教育」では、女性として温かい心を持った医療が実践できるよう、体験の中から感性を磨き、他者・患者と共感できる能力・態度を修得するという教育理念の下、さまざまな講義・実習が行われている。ワークライフバランスを含めた社会学・キャリア教

育もこれに含まれており、到達目標の中には女性医師の資質・特徴として「女性のライフサイクルのなかで医師のキャリア開発を計画できる」という項目を掲げている。特に3年生の「女性医師のロールモデル実習・地域医療における活躍」はこのテーマに合致した形で実施されている。医師としての多様な活躍分野を学び、自己のキャリアビジョンに役立てられていくことと思われる。

今回の意識調査は、本学医学部学生6学年全員を対象とし87%という高い回収率が得られたものであり、現時点の学生の意識、女性医師支援の認知度を把握する上での信頼性は高いと考えられた。

まず「医師を志した者としていつ頃から将来のキャリアを意識しているのか」に関する質問結果からは、全体で約6割の学生は医師を志した時点、つまり入学する前から既に将来の働き方を意識し、女性医師への支援体制に期待を持って本学を選び、入学してくるということが汲み取られた(図1)。学年別に見ると低学年の方が入学前から意識している割合が高く、これは入学試験以前に本学ホームページなどから得られる情報が充実してきている影響があるものと思われる。入学後になると、どの学年も大多数の学生が卒業後のキャリアについて意識を持っており、とくに卒業が近づく高学年の方がより意識が高まっている傾向が確認された(図2)。

「将来的にはどのような業務に従事したいと思っているか」という点については、ほぼ全員が「診療」をやりたいと考えており、もう一つ選ぶ業務としては「研究」が多かった(図3)。「教育」と「行政」では、学年によって選択のばらつきがあった。さらに「子育て中ならばどのような業務を希望するか」という条件を付けた質問を加えたが、結果はほとんど変化しなかった。つまり、学生が持つワークライフバランスのイメージとして「子育て期間のみ業務を変えて乗りきるのも一手」といったような志向は見受けられなかった。やはり医師を志す上で診療をイメージするのは当然のことでもあり、女性医師支援策の充実が最も求められる業務としての課題を認識した。

「将来、女性医師として生きる上で心配していること」に関しては、「結婚・出産についての意識」が直結していた。将来の心配として挙がるのは、「結婚・出産・育児」、「仕事と家庭の両立」、「労働時間・休暇」など、女性であるがゆえの不安要素や興味の項目が目立って高い結果であった(図4)。つまりその

後に続く質問において、全体の約9割は将来子供をもちたいと考えており(図5)、約8割は育児時期でも仕事を続けたいと思っているという結果が(図6)、これら将来の心配要因を反映していると考えた。将来子供をもちたいと考える割合は、高学年ほど高くなる傾向が見られた。これは、年齢が上がるにつれ自分の将来像が具体化することで、「わからない」と答える割合が減少することが影響していると思われる。大多数の学生が育児時期でも仕事は続けたいと答え、自分の将来像は「家庭と仕事の両立を大切にする」という背景には、「医師は子供をもっても何らかの形で続けられるもの」という強いイメージがあるものと推測された(図7)。

「ワークライフバランスのために必要と思うもの」に関しては、「職場環境」が全体で約半数を占めた。次いで「配偶者の理解」「育児環境」であった(図8)。この結果を平成18年度全国医学部長病院長会議で施行された、女性医師1,808名へのアンケート調査⁹⁾の中にある類似質問の結果と比較した。全国調査においては、施設種別、年代別、地域別どこでも、1位「育児環境」、2位「職場環境」、3位「配偶者の理解」という結果になる。本学の学生にとっては、「育児環境」が3位にまわるところは興味深い。子育て環境の重要性というのは、実際に子供をもつ時期になって実感するためであろうかと推測した。

島根大学医学部に開設された「島根大学医学部附属病院女性スタッフ支援室」において、2007年12月、医学部学生を対象に今回我々が行ったものとほぼ同様の目的の意識調査が行われていた¹⁰⁾。その中の類似質問の結果について、男女共学の環境にある島根大学の女子医学生と本学学生とを比較検討した。「仕事と家庭・育児に関する自分の将来像」についての質問に対する島根大学の女子医学部生の回答は、「子どもを持つつもりはない」4%、「仕事と家庭・育児を両立させたい」67%、「出産後は仕事を一旦辞めて、育児負担が軽減したところに復職したい」21%、「仕事は辞めたい」2%、「まだわからない」6%であった。これを本学学生の結果と比較すると、「仕事と家庭を両立させたい」とう割合が約10%低いものの、全体的にはほぼ同じ比率傾向であることがわかった。「仕事と家庭の両立のために必要と思う取り組み」について島根大学では、1位「育児環境(院内保育所の整備)」、2位「職場環境(勤務体制の弾力化)」、3位「配偶者の理解・協力」という回答であり、これは先に述べた全国女性医師の回答と同じ傾向を示

し、本学学生の回答順位とは異なっていた。本学は、至誠会保育園・院内保育所など託児環境の整備が早期よりなされており、このことは学生の間でも認知度が高いことより、他大学の医学生と比べて育児環境への不安は軽減している可能性とも捉えられた。

今回の意識調査結果をまとめると、本学学生の多くは非常に早期から自分のキャリアを意識し、結婚・出産・育児など女性特有のライフイベントと医師としての仕事の両立を果たせることを信じて将来を見据えていることがわかった。そのため本学の女性医師支援策に対する学生の期待は高く、現在その情報自体は低学年の方がより知られていることも判明した。大学側も、「ワークライフバランスを調整しながら、医師としての使命をきちんと果たしたい」という意欲に溢れる学生に応え、卒前キャリア教育をより一層充実させるとともに、明確で平等な女性医師支援策を病院全体により浸透させていく必要があると考えられる。

一方、このような学生時代からの一貫したキャリア支援は、内面性（キャリア教育）と外面性（環境整備）をバランス良く高めることが大切である。困難に直面した女性医師が理想と現実の間で戸惑う時、最も必要となるのは「本人の意思」であろう。職場環境・育児環境の整備はもとより、女性医師として生涯積極的に社会貢献する意欲・柔軟性を備えたプロ意識を養う教育は、今後も重要な支援といえる。このバランスの良いサポートがあって初めて大きな成果が生まれ、若い女性医師が力強く羽ばたいていけるものと期待する^{4)~7)}。

文 献

- 1) 日本医師会男女共同参画委員会日本医師会医師再就業支援事業：「女性医師の勤務環境の現状に関する調査」。日本医師会（2009）http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20090408_2.pdf. [Accessed on September 18, 2009]
- 2) Gjerberg E: Women doctors in Norway: the challenging balance between career and family life. Soc Sci Med 57 (7): 1327-1341, 2003
- 3) Rout U: Stress among general practitioners and their spouses: a qualitative study. Br J Gen Pract 46 (404): 157-160, 1996
- 4) 「光できらめく理系女性たち」(小館香椎子監)、オプトロニクス社、東京（2007）
- 5) 東京女子医科大学女性医学研究者支援室：文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業「保育とワークシェアによる女性医学研究者支援プロジェクト」平成18年度報告書
- 6) 東京女子医科大学女性医学研究者支援室：文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業「保育とワークシェアによる女性医学研究者支援プロジェクト」平成19年度報告書
- 7) 東京女子医科大学女性医学研究者支援室：文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業「保育とワークシェアによる女性医学研究者支援プロジェクト」平成20年度報告書
- 8) 内閣府仕事と生活の調和推進室：「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」及び「仕事と生活の調和推進のための行動指針」の策定。 <http://www8.cao.go.jp/wlb/index.html>. [Accessed on October 29, 2009]
- 9) 全国医学部長病院長会議：女性医師の勤務に際しての育児サポートの状況に関する実態調査「平成18年報告書」
- 10) 島根大学医学部附属病院女性スタッフ支援室：実績報告2007年度 <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/woman/report1/report-1-2.html>. [Accessed on September 18, 2009]